

多賀工業会千葉県支部会報

茨城大学工学部 34号

平成 17 年度後期 [9 月よりの行事一覧表]

新年会の案内	平成 18 年新年会・・・14 頁	副支部長	高橋 清
		幹事・総務	山形俊一郎
第 32 回総会	平成 17 年度千葉県支部総会報告・・・3 頁	幹事長	大和田武義
		幹事・総務	山形俊一郎
支部長挨拶	支部長就任のご挨拶・・・2 頁 役員移動・・・2 頁	支部長	檜山邦良
報 告	平成 17 年度多賀工業会総会に参加して・・・15 頁 第 6 回バス旅行(母校訪問)の報告・・・14 頁	幹事長	大和田武義
		副支部長	高橋 清
会員たより	会員たより・・・4 頁 巨竜中国の光と影(第五話・第六話)・・・6 頁	支部長	檜山邦良
		寄稿	穂坂 邦光

俳 句	平成 17 年バス吟行俳句会報告・・・12 頁	俳句会長	塚越 要夫
	平成 17 年度後期俳句募集・・・13 頁 兼題：夜寒、手袋、大根 締切日：12 月 25 日	副会長	小室 哲夫

囲 碁	第 30 回 17 年 11 月 27 日 (日)・・・11 頁	囲碁会長	高橋 孝雄
	第 31 回 18 年 2 月 18 日 (土) 予定 会場：船橋中央公民館 9:30～16:30	副会長	穂坂 邦光

史跡・万歩会	史跡・万歩会長 高橋 清 副会長 佐藤栄一
第 48 回 行程約 7.5Km	平成 17 年 11 月 26 日(土) JR 松戸駅 10:00 集合 松戸駅 →江戸川河岸 →しばられ地蔵 →水元公園 →JR 金町駅
第 49 回 行程約 1 Km (参照 14 頁)	平成 18 年 1 月 9 日(月) 千葉 NTT 前 8:50 集合(9:00 出発) NTT 前 →鹿野山神野寺(初詣) →古夢にて新年会(12:30) →千葉 NTT 前
第 50 回 行程約 6 Km	平成 18 年 3 月 25 日(土) JR 王子駅(京浜東北線) 10:30 集合 王子駅 →飛鳥山公園(飛鳥山博物館、あすかの小路等) →地震の科学館 →旧古河庭園 →JR 上中里駅
第 51 回 行程約 6 Km	平成 18 年 5 月 13 日(土) JR 外房線 土気駅 10:30 集合 土気駅 →昭和の森公園(新緑とつつじを見ながら園内を散策) →土気駅

ゴルフ会	10 月 21 日 (金) 秋のゴルフコンペ・・・11 頁 富士カントリー芝山 GC. 集合 9:00	ゴルフ会長	高萩 隆司
	11 月 18 日 (金) あやめ会との合同コンペ ザ・カントリークラブ・グレンモア	副会長	綿引 貞男

支部長就任のご挨拶

檜山 邦良 (昭30 学機)

このたび、税所前支部長のあとを承り、多賀工業会千葉県支部長に任ぜられました。歴代支部長ならびに諸先輩が築かれました実績を顧みますとき、浅学非才のわたくしには身に余る重責との想いがありますが、最善を尽くす所存でありますので、多賀工業会千葉県支部の皆様のご指導とご支援をお願いいたします。

当支部は昭和31年2月に他支部にさがけて設立され、来年は満50周年を迎える運びとなりました。この間、皆様のご尽力によって、着実に発展してまいりました。ここにあらためて、ご支援賜りました皆様に、心からなる敬意と謝意を表します。

さて、当支部は、会員の親睦、交流の場を提供し、心身の健康維持のお役に立ちたいとの願いで、俳句、囲碁、史跡万歩、ゴルフの各同好会の活動を平成9年度から行ってまいりました。これらの会は①誰でも②気兼ねなく③楽しくをモットーに活発に活動しております。そして行事内容とスケジュールは年間2回発行の会報でお知らせしていますので、どうか奮って参加されますことを希望します。また、このほか新たな同好会を立ち上げたいというご要望があれば、それに応えるように努める所存です。

残念ながら、いろいろの事情により活動に参加できない方など、会報のみが絆という方が、大勢居られます。これらの方々のために会報の内容の充実に一層努力したいと思ひます。

千葉県支部は、創設の50年の節目に立っていますが、これから先は決して順風満帆とは行かないと思ひます。これは会員の高齢化に伴う会員数の減少および新規実会員の減少傾向にあることによるもので、いまや当支部も同窓会全般に共通の会員数減減化問題に直面しているためです。したがって、今後の維持発展のためには、当支部活動を一層魅力あるものにして、会員の積極的活動への参加を促す策を講じなければなりません。そのために、皆様のお知恵とご協力を戴けるよう願っています。

当支部は学び舎を同じくした者のためにあるという意識の下、わたくしは、目的に沿って誠実に、公正に運営をしていくつもりです。皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

一口メモ

多賀工業会千葉県支部会報33号 (H17/4/10) 発送数：636部

役員異動

	役職	氏名	卒年学科	前役職
新任	支部長	檜山 邦良	30 学機	幹事長
	幹事長	大和田武義	32 学電	副支部長兼企画
	副支部長兼史跡万歩会長	高橋 清	35 学金	史跡万歩会長
	史跡万歩副会長兼名簿管理	佐藤 栄一	37 学電	史跡万歩副会長
	監事	安本 脩三	33 短機	
	顧問	中村善一郎	22 専電	監事
	〃	税所 裕	28 学金	支部長
退任		山本 芳正	22 専機	顧問

平成 17 年度第 32 回千葉県支部総会報告

担当：副支部長 大和田 企画 山形

平成 17 年度の第 32 回千葉県支部総会は、深緑の美しい 5 月 28 日(土)に岬町の外房国定公園内にある国民年金保養センター“そとぼう”で開催されました。

来賓として、本部理事長の村野井教授をはじめ他支部関係者 4 名を迎え、会員 23 名の参加の下に、予定議題の審議がなされ、次のような主要事項が、参加者一同より承認されました。

(1) H16 年度の活動報告及び決算書

(2) H17 年度の活動計画案と予算案

(3) 支部長の交代 税所氏(昭 28 学卒)任期満了により、檜山氏(昭 30 学機、前幹事長)に。更に、明石和夫氏(昭 22 専金、東大名誉教授)より、「大学での教育・研究四方山話」と題して、大学教育の今昔・御自身の研究開発分野であったプラズマ冶金技術と日本国内の Mg.Ti の状況などについて、興味深く講演頂きました。

来賓代表として、本部理事長・村野井教授より最近の母校の状況について、大学の独立法人化による問題や個人情報保護法の施行による、同窓会活動の基本事項である名簿整備の困難さ発生など、直面する新しい課題について紹介・報告がありました。

懇親会においては、俳句会・ゴルフ会・囲碁会・史跡万歩会より、成績発表・表彰や今後の具体的活動予定の紹介があり、その後、会員相互の懇親・近況報告等をしながら、美味しい外房の海の幸を堪能しつつ、和やかな一時を過ごす事が出来ました。

同窓会活動の活性化のためには、会員の支援協力が絶対必要条件です。H18 年は千葉県支部発足 50 周年です。千葉県内には約 650 名の連絡を取れる会員が居りますが、会員の皆様には是非諸行事に参加・協力をして頂きたく、改めてお願いいたします。支部長の交代に合わせて、会報の最後のページに紹介のように、幹事の担当も替わりましたので、会員各位の一層の支援をお願いし、有意義な 50 周年を迎えられる事を期待しております。



会員たより

- 16 精 原田 正夫 腰痛、脚痛のため万歩会は不可能だがバスハイク会で母校を訪問してみたい。若さを保つため、結婚相談、仲人をやっております。結婚希望の方が居りましたらご紹介ください。
- 17 金 地曳 一夫 脚が悪く歩行困難となっています。遠距離出張が出来ませんので残念ですが欠席させていただきます。
- 17 精 市東 志郎 慢性腰痛と最近は歩行も思わしくなく諸行事に参加出来ません。役員諸兄のお骨折りに感謝します。
- 19 機 小林 秀夫 体調悪く長距離の歩行困難のため当分行事不参加とさせていただきます。みなさまによろしく。
- 19 機 山田 泰雄 腰痛のためゴルフ断念・残念！！快復すれば再開する。
- 19 金 大山 巖 小生住居表示が3月28日から下記のように変更になりました。
千葉県柏市高柳 1747-1
- 20 機 鈴木 友生 脊柱管狭さく症のため歩くことが不如意で各行事に参加できません。ご盛會を祈念致しております。
- 20 通 白鳥 忠雄 体調不良の為欠席します。
- 22 機 関 誠治 史跡万歩会(7/7, 9/24, 11/26)参加出席します。なつかしい母校が見られるとは感激です。寮は今でもあるでしょうか。
- 22 機 山本 芳正 体調の快復が思うように行かずしばらく自重します。
あせらずに。
- 22 金 明石 和夫 一冬越えてやれやれ、苦手の厳しい夏はどうなりますか。
- 22 通 幸道 貞一 法事と重なり残念ながら欠席します。御盛會を祈ります。
- 22 電 安達恵三郎 腰痛症のため歩行困難ですが、自動車自転車は注意して乗っていますので用足しはできます。支部の皆様の近況等は会報でわかり、心強く思っております。皆様によろしく。
- 22 電 大木 政虎 椎間板ヘルニアを患い痛みには参りました。胃もその為に患ってしまいました。少しずつ快復中です。残念です。
- 23 機 川田 浩宗 年令なりに元気です。皆様の御健康をいのってます。
- 23 通 岩下 晃 幹事の皆さんお世話になります。徐々に老化現象を実感しておりますが、今年は総会(5月28日)と第46回史跡万歩会(7月7日)に参加いたします。初参加ですのでよろしくお願いします。
- 23 通 鈴木 利久 第46回史跡万歩会(母校訪問)参加します。
- 25 原 小河 孝 県の生涯大学専攻科に進学して老人同志と雑学を勉強しています。
- 25 電 森 勇一 今年こそはと、出席を強く希望しつつも、体調不良が続いておりますので失礼いたします。どうぞ皆さん健康にご留意を。
- 25 精 稲葉 信彦 皆さんに宜しくお伝え下さい。体調の維持に努力して居ります。幹事さん大変ご苦労さまです。
- 25 精 小笠原忠夫 病氣入院の為皆様によろしくお伝え下さいませ。
- 26 精 熊谷 達夫 まあまあ元気に過ごしていますが、丁度予定が重なり欠席になりますのでご了承下さい。
- 28 原 橋本 武夫 次回の史跡万歩会に参加させていただこうと思って居ります。

- 28 電 山田 允 平均寿命間近になりましたが年相応に過ごしております。
- 28 金 池田 潤一 税所さんご苦労さんでした。
- 29 機 大津 正夫 当日私用のため欠席します。ご盛会をご祈念申し上げます。(会報に掲載していただきました。戸田編集委員にお世話になりました。)
- 29 電 茅根 正 体調維持に野菜作り、ボケ防止に囲碁と結構忙しい日々を送っています。諸兄の御健勝を祈って止みません。
- 30 機 目黒 久 今年もよろしくお願いします。
- 30 原 石川 英二 体調気遣いつつノホホンと唯、時を過ごすばかりの一年になりそうです。
- 31 電 原澤 宏毅 県展、次は個展に挑戦。頑張っています。
- 32 電 小室 秋生 4/11～糖尿病にて東大病院入院加療中です。
- 32 金 穂坂 邦光 総会にはロシアに出かける日と重なっている為欠席させていただきます。又新年会は1月第2日曜日の場合は老人会の行事となつて居る為出席できません。
- 33 金 薄井 徳彦 総会には別件(旅行)とバッティングしますので、欠席致します。皆様によりよく。
- 33 機 高橋 清忠 最近物作りが目のかたきにされるので75才を過ぎて介護福祉の国家試験にパスし、ボランティアをして居ります。これは自分の健康のためと自己満足のためと思って居るこの頃です。
- 33 機 富岡 恵二 大変遅れて申し訳ありません。現在千葉生涯大学校の学生です。
- 34 原 芝山 佐芳 所要で総会・懇親会は欠席します。
- 34 電 仁平 康雄 役員の皆様ご苦労さまです。いつも欠席で申し訳ありません。
- 37 金 佐藤 博泰 支部会報有難うございます。
- 38 電 兼子 八郎 5/28は東京支部の幹事会あり失礼します。
- 39 電 山本 一夫 ご無沙汰しています。元気です。
- 40 電 小田島 巧一 史跡万歩バスハイク会は出席の予定です。
- 44 精 日置 和夫 60才までは4月～11月の休日が無いのが実情です。今後ともよろしくお願いします。
- 46 電 兼巻 良勝 町会や神社等の仕事で忙しい。囲碁大会だけは参加したいと思っています。
- 50 機 中川 誠 なかなか行事参加出来ません。土・日と少年野球のお手伝いで健康管理しています。
- 元機 桑原 弘明 静岡県沼津におりますので出席できません。よろしくお願いします。

訃 報

- 昭31 学電 綿引 敏雅様 平成16年12月27日逝去されました。
- 昭19 専原 萩谷 進 様 平成17年1月13日逝去されました。
- 昭17 専原 寺山 巖 様 平成17年3月27日逝去されました。
- 昭22 専機 山本 芳正様 平成17年9月15日逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

05 年 7 月下旬に所用でハルビンに行って来た。その際、私が中国の長期出張時に盟友となる事が出来た揚鵬氏に再会した。彼は十年程前に北海道に約一年間滞在した事があり、日本語も非常に堪能で、日本人の心も良く理解して居る。現在、ハルビン市の中心にある中央大街に建つ秋林商厦（デパート）で、中国の民芸品と土産物を販売している青年実業家である。第五話は、彼との話で知り得た事と、ジェトロ（日本貿易振興会）北京センター所長江原規由氏の考察を紹介する。第六話は、東京外国語大学名誉教授岡田英弘氏（正論 05 年 7 月号）の論説の一部を抜粋し、中国の現状を知って頂く一助となれば幸甚である。

第五話 「和諧社会」（調和のとれた社会）の実現をめざす中国

04 年、中国は国内総生産（GDP）で 9.5% の経済成長を達成し、実質的に世界一位の高度成長を維持した。この高度成長を可能にした「改革開放政策」の生みの親である鄧小平は、「発展は硬道理」（発展は絶対に必要である）といい、また「先富論」（機会ある者から先に豊かになれ）を掲げた。

その結果、中国は外貨準備高で日本に次ぎ世界第二位になった。

揚氏によると、1970 年代の人民の「三種の神器」は、自転車、ミシン、腕時計であった。今日は、マイカー、マイホーム、海外旅行になるなど、中国は豊かになった様に見受けられる。しかし、同時に高度成長の過程で数々の「矛盾」、すなわち「成長のマイナス要因」が生まれ、「豊かさ」の追求・拡大に影響が出始めているのも事実である。このままでは「明日の発展」は難しくなるとの声も聞こえる。

この 3 月に閉幕した第十期全国人民代表大会（全人代、日本の国会に相当）第 3 回会議で、政府活動報告を行った温家宝総理は、「経済社会の中に突出した矛盾や問題が存在する」ことを認め、「和諧社会」の構築に全力をあげる方針を示した。分かりやすくいえば、成長のマイナス要因を抑え、「豊かさ」がより多くの人民に実感でき、還元できる社会、すなわち、「人民のため」の社会づくりを目指すものである。

成長を続ける中国で、広がる格差が社会不安を招くアキレス腱になるかもしれないのだ。暮らし向きはよくなっているが、都市と農村の所得の開きは大きくなっている。新富（シンフー）と呼ばれる新たな富裕層と、都会を支える出稼ぎ「民工」（ミンコン）の違いも一層鮮明である。

人口 13 億の 6 割近くを占めるといわれる農村部と、都市部の格差は大きい。90 年代半ば、都市の平均年収は農村の 2.5 倍だったが、04 年は 3.2 倍に開いた。



出所：朝日新聞 05 年 6 月 20 日朝刊

地域別で最も裕福なのが、外資系企業が集中する上海で、都市部の住民 1 人当たり平均年収（税などを除く）は 1 万 6683 元（約 21 万 7000 円）で最も貧しい貴州省の農村部は、平均年収が 1722 元（約 2 万 2000 円）で、約 10 分の 1 しかない。

上海の鍋料理店で働いていた頃は、1 日 12 時間で月収 500 元（6500 円）。その後外資系エアコン製造工場で民工として働く様になって、1 日 8 時間で月収 800 元（約 1 万円）、木造住宅

(10 畳)に住み、冷暖房設備も無い生活をよしとしなければならない労働者が居る事を忘れてはいけない。

都市部には資産が 15 万～30 万円 (195 万～390 万円) の「豊かな中流階級」が育っている。中国青年報 (日刊紙) によると、その比率は 99 年には全人口の 15% (2 億人) だったが、03 年は 19% (2 億 5000 万人) に増え、毎年 1% (1300 万人) ずつ伸びているという。20 年には 40% にのぼるとの予測もある。

一事が万事とは言わないが、このままでは、成長の果実である社会保障、雇用、教育、文化、衛生面で地域・階級間格差がさらに進行しないとも限らない。

現在、現指導部が、農村部で農業税の廃止など優遇処置を講じて農民所得の向上をはかり、内陸の省・市で「都市化」推進や、戸籍制度の改革 (第四話 規制緩和に向かう戸籍制度参照) などによる雇用機会の創出をはかっているのも、格差是正による「和谐社会」の実現を見据えたものといえる。

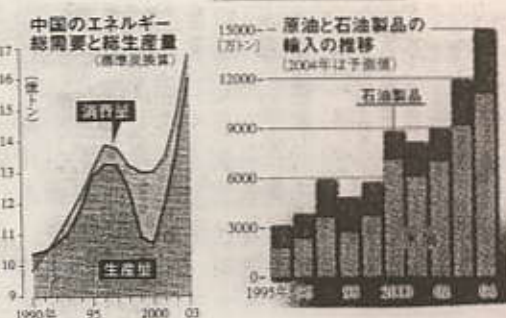
このほか、経済成長の「マイナス要因」としては、昨年の電力不足に代表される資源・エネルギー問題や環境問題の先鋭化、さらに事故や犯罪の多発なども指摘できる。

高度経済成長を続ける中国は、今やアメリカに次ぐ世界第二位の石油消費国である。産油国 (世界第 6 位) なのに石油が足りない。その原因の 1 つが自動車の普及である。ここ数年、自動車保有数は毎年 200 万台前後のペースで増えている。

石炭を使う鉄鋼やセメント、肥料などから、電機・電子産業などへ産業構造が高度化したことも、石油への移行を促している。

中国は 1993 年に石油の純輸出国から純輸入国になった。その後も石油輸入は景気の波に影響されながらも、ほぼ右肩上がりで推移して居り、2010 年には原油と石油製品で、計 2 億トンを入力すると予測されている。

この様な背景から、なりふり構わぬエネルギー開発や調達を進める中国と、日本の間のエネルギー摩擦も顕在化して来た。最大の懸案は、東シナ海の日本が主張する排他的経済水域 (EEZ) の境界線 (日中中間線) 近くで、中国が進める春曉ガス田 (しゅんぎょうガス田) の開発問題である。04 年 10 月に北京で、東シナ



出所：読売新聞 04 年 11 月 9 日朝刊

海ガス田に関する第一回の日中政府間協議が行われたが、中国側は具体的な資料も示さず、EEZ の境界問題を含めて日中双方の主張のぶつけ合いに終始し、問題解決の難しさのみが残った。

「和谐社会」の実現には、高度成長が前提となっているわけであるが、これまでと大きく異なるところは、GDP の拡大のみを追求するのではなく、その分配が重視されているところである。各地域、各階層で分配による格差調整が必要ということになる。「先富論」から「共同富裕」への段階に入ったということである。

「和谐社会」の建設はこれからが本番である。3 月の全人代に、その設計図と前提が提示され、認知された。それは、五つの「調和・バランスのとれた発展」を目指すとしている。

- つまり
1. 都市と農村
 2. 地域と地域
 3. 経済と社会

4. 人と自然

5. 国内発展と対外開放

である。具体的には、格差是正、腐敗撲滅、環境保全などである。「人民のために、地域・階層間で調和とバランスのとれた発展」を目指す「和諧社会」は、十三億の人口を抱える中国の「ユートピア」（理想郷な世界）といえるかも知れない。

第六話 友好を語る前に、今こそ中国幻想を捨てるべし

日本人と中国人は同じように見えても、一歩なかに踏み込んでみると、行動の動機がまったく違う。同じ環境に対しても、日本人と中国人は同じ人間とは言えないほど、反応が違うのである。それを日本人も中国人もわかっていない。

中国人独特の行動様式をあらわす「指桑罵槐」（シソウバカイ）ということわざがあるが、中国人は、本当に攻撃したい相手ではなく、まったく違う方を指して罵るという意味である。

◎中国大陸に存在していたのは「個人」だけ

われわれ日本人は何気なく「中国」あるいは「中国人」という言葉を使うが、実は 20 世紀になるまで、中国大陸には、中国という国家もなかったし、中国人という概念もなかった。日本人は、いつも日本を意識し、日本人であることを自覚している。これはあまりにも当たり前のことで、そうできない人は有り得ない。だから人間たるもの、だれもそうだと信じ切っている。

ところが中国人は違う。中国人は、自分が中国人であることを普通は自覚していない。数千年の間、あの広大な大陸に存在していたのは、ただただ「個人」だけであった。中国大陸に住んでいた人々にとって、自分だけが頼りであり、自分を守ってくれる国家が存在するなどとは、夢にも思っていなかった。そのような状況の中で生み出されたのが「中国人」の行動原理なのだから、それは当然のことながら、徹底した個人主義とならざるを得なかった。

◎中国文明の要素

それでは、「中国人」そのものはどこから来たのだろうか。

中国人とは諸種族が接触・混合して形成した都市の住民のことであり、文化上の概念であって、人種としては「蛮・夷・戎・狄」（バン・イ・ジュウ・テキ）の子孫である。さらに言うなら、漢字を理解する人間が、中国人となったのである。

漢字は、異民族が接触する洛陽盆地で、違う言語を話していた人々の交易のための共通語として発展した。だから、漢字の古典には、名詞や動詞の区別はなく、接頭辞や接尾辞もなく、時称もない。どんな順番で並べてもいい。これは、マーケット・ランゲージの特徴である。このために、日常の話しことばとどんなにかけ離れていても、漢字を学べば、中国人と見なされることになった。

われわれ日本人は、ひらがなやカタカナという、便利な表音文字を持っているので、ほとんどだれでもが漢字を読むことができる。ところが、漢字だけしかなかった中国では、漢字を使うことができるのは、いつの時代でも、一握りのエリートだけだった。たくさんの漢字を学んで、これを使いこなすことができるには、かなりな知能指数を必要とする。教育には金も暇もかかるので、誰でもできるわけではない。だから、中国では、「読書人」と呼ばれる人間だけが、本当の中国人であって、中国の領域で暮らしていても、漢字を知らない下層の庶民は、実際には「夷狄」あつかいを受けてきた。

このような中国の2重構造は、そのまま現代にも生き残っている。現代中国でも都市籍と農村籍にはっきりと分かれていることは、かつての「中国人」が「都市民」であったことの名残りであるし、共産党幹部とか指導者というのが、かつての「読書人」の役割を果たしているといえる。

◎コミュニティの違う他人は敵も同然

そういうわけで、中国人のメンタリティーの中には、実は国家とか民族というものが存在しない。かれらにとっての「世界」とは、かつては城壁に囲まれた都市に象徴された、狭い閉鎖空間だった。その閉鎖空間を1歩出れば、そこは「蛮族」が住む異世界である。かれらはそうやって二千年も生きてきたのである。

このような中国人の世界観が端的にあらわれているのが、世界中に点在するチャイナ・タウンである。中国人は海外に移住しても、中国人だけの閉鎖空間を作って、そこに住もうとしてきた。そして、できることなら中国人同志だけで商売をやっていければいいと願っている。それも、同郷人同士ならなおいい。その好例を、サンフランシスコのチャイナ・タウンに見ることができる。この町の中国人地域は、全米のなかでも最も人口密度が高いことで知られている。恐ろしく狭い地域の中に、ひしめきあって中国人が暮らしている。したがって、生活環境としては最悪である。だが、そのような悪環境の中で暮らしているのは決してかれらが貧しいからではない。いくら金持ちになっても、彼等はいっこうにチャイナ・タウンを飛び出そうとしない。それは、中国人にとって、狭い空間の中ほど心安らぐものはないからである。

大家族の中で暮らすのが理想、これは一見すると非常に美しく麗しく、懐かしい話に聞こえるかもしれない。しかし、日本人とまったく違うのは、中国人の場合、これは裏を返せば、同じコミュニティに属さない人間はまったく信用しない、ということにつながる話である。

つまり、他人はすべて敵であり、油断をすればいつ寝首をかかれるかわからない、という考えが、中国人のメンタリティーの中に牢固として根ざしているのである。

中国人の考え方の中に、コミュニティが違う他人は敵も同然、という発想が生まれたのは、あの広い中国では、住んでいる世界が違うというのは、言葉が違うということを意味しているからである。中国語には、北京語、上海語、福建語などがあることは日本人も知っているが、実際にはもっと言語は細分化されている。

◎必然としての「弱肉強食の世界」

日本人はごくおおざっぱに中国大陆の住民を「中国人」と呼んではばからないが、福建省の人間にとって、北京に住んでいる人間を同属と見なせるものだろうか。むしろかれらにとって、北京の住民は、日本人と同じように「外国人」なのである。ちなみに、中国語では白人のことを「洋鬼」(ヤンクイ)と呼ぶことがあるが、これはまさしく言い得て妙である。中国大陆に住んでいる人間にとって、「外人」とは他の省の人間のことで、肌の色の違う白人は、人間の範疇にも入れてもらえないのである。「鬼」とは中国語で「幽霊」「ばけもの」とでもいう意味である。

このように、「自分の住んでいる家を1歩出れば、まわりにいる人間はすべて敵であり、自分の寝首をかこうとしている」という人間観が生み出すのは、いうまでもなく「弱肉強食の世界」である。他人からつけ込まれる前に、他人の弱みにつけ込め、というのが中国人の行動原理の第一条である。

◎最大のタブーは他人に弱みを見せること

中国人社会において、最大のタブーは他人に弱みを見せることである。それは普通の意味での弱点、短所ばかりではない。例えば、他人に対して親切であるというのも弱みになる。人を疑わないような善良な人間ほど、つけ込まれやすいものはない。また、悠長な者も「傷つけられやすい」のである。おっとり構えているということは、それだけ奇襲攻撃に弱いという事である。

このような弱点を持っている人間は、中国では尊敬されない。茫洋とかまえてるのが、中国流の大人であると思っているのは日本人だけである。中国人社会において最も望ましい、理想的な人間というのは、誰に対しても常に緊張を崩さず、毅然とした態度を維持する人間なのである。

◎「同文同種」「一衣帯水」という思い込みは捨てよ

本年4月以来の中国の反日デモに関する日本側の報道や論評のなかで、決定的に欠けていたのは、中国人が、日本人とはまったく違う行動様式を取る人間である、という認識だった。

昨今の「東アジア共同体」構想を見ても、中国人のことを、我々日本人と規範や価値を共有できる存在である、と決めてかかっている。「同文同種」「一衣帯水」という言葉からくる思い込みが、真実を見る目を曇らせているのである。

中国人に理解してもらおうという無駄な努力をするつもりはないが、日本の同胞に対して我々日本人と中国人がどんなに違うかということを最後に説明したい。

◎「指桑罵槐」(シソウバカイ)を理解せよ(桑を指して槐(エンジュ)を罵る)

桑は畑に植えられる木で、葉は蚕のエサになるが、槐は街路樹や庭木として植えられ、家具を作るときの材料となる喬木(キョウボク)であって、似ても似つかない。

つまり「桑の木を指して槐を罵る」というのは、「本当の怒りの対象とは全然別のものを攻撃する」という意味である。「ニワトリを指して犬を罵る」と言っても意味は同じである。

中国人が怒っている時、その言葉を鵜呑みにしてはいけない。中国人は、どんなときも表だって誰かを批判したり、攻撃したりすることは決してない。当事者を直接批判することは殆どなく、この「桑を指して槐を罵る」というやり方を探る。つまり、ある相手を攻撃しているように見せて、実は別のところにいる人を批判しているのである。

だから、もし中国人が面と向かって罵り言葉や批判を投げつけた時には、それに直ちに反応してはならない。よく相手を観察し、彼等が真に攻撃したい対象が別のところにあるのではないかと考えるべきである。

言い換えるなら、彼等が書かないこと、語らないことにこそ、事の本質が潜んでいるとみるべきなのである。

(注) 一衣帯水……一筋の帯のように狭い川、または海のことを指す

~~~~~ 15 頁から ~~~~~

日立創業社長小平氏肖像画を書かせ、保持していたが、日立創業60周年時、売却要求を受けた。しかし工専としてはこれを拒否し、貸与したなどの裏話多数。

③S64年工学部創立50周年記念に3億円程度の基金を計画して、日立製作所に肖像画貸与代わりに高額寄付を要求したが5千万円、卒業生は5千3百万円等で合計2億3千万円出来た。

④大学院及び博士課程設立認可を得たが、このために県・他校と原子力総合技術研究機構設立を推進中等など各種努力話・裏話が紹介された。



## 囲碁会のご案内

囲碁を楽しみたい方はどなたでもお気軽にご参加下さい、お待ちしております。

### 1. 運営方針

- 1) 囲碁を楽しみ、親睦を中心に運営し、新しい参加者を大いに歓迎します。
- 2) 他支部との交流を進め、会友制を実施するなど対局相手を広げます。
- 3) 点数制の運用で棋力の調整を図り、規程による昇級段を行います。
- 4) 大会は3ヶ月毎に定例的に開催し、年間成績により表彰も行います。

### 2. 2005年の囲碁大会入賞者

- 第27回 2005年2月26日 参加 13人  
優勝 森(五) 2位 穂坂(初) 3位 高橋(三) 4位 海野(六)
- 第28回 2005年5月21日 参加 15人  
優勝 山下(六) 2位 石川(二) 3位 照沼(四)  
4位 穂坂(初) 5位 佐藤(七)
- 第29回 2005年8月20日 参加 18人  
優勝 玉造(四) 2位 小白井(四) 3位 石川(二)  
4位 佐藤(七) 5位 高橋(三)

### 3. 2005/6年碁会日程・予定

今後の予定：各会員にご案内しますが、会場等の都合により変更が有りえますので幹事まで登録をお願いします。

第30回 11月27日(日) 9時30～16時30  
船橋市中央公民館

第31回 2006年2月18日(土) 予定

~~~~~

ゴルフ会のご案内

同窓会ゴルフで、気軽に、愉快地に、健康に！

◇ 秋のゴルフを楽しみましょう！

秋の同窓会ゴルフに参加募集中、連絡を待っています。

- ・10月21日(金) 集合9:00 (コース) 富士カントリー芝山ゴルフ倶楽部
- ・費用 ¥8,800 (プレー+昼食) 乗用カート・セルフ+¥2,000 (会費)

◇ あやめ会との合同コンペを企画しています。

好評のあやめ会との合同コンペを今年も行います。

- ・11月18日(金) (コース) ザ・カントリークラブ グレンモア
- ・詳細は計画中です。

【連絡先】

高萩隆司 (38 電) 〒290-0011 市原市能満 1898-54

Tel&Fax 0436-75-0077

E-mail takashi-takahagi@mx2.ttcn.ne.jp

平成十七年バス吟行俳句会報告

於 市川中央公民館

【高句句】

生化学実験棟裏蛇の衣きぬ
 汗拭ひ訪ねし母校滄桑そうそうの変
 新学科次世代担ふ雲の峰
 赤錆びし廃業鉄路灼けゐたる
 梅果饅うえ猥雑こしたやみとなる木下闇

S 25 電 塚越としを
 S 30 機 檜山 邦良
 S 36 金 小室 哲夫
 S 25 電 塚越としを

【その他入選句】

あぢさゐや老松老梅ひきたてり
 思い出は裏門への道草茂る
 血を染めし小川に鮎うばの潮る影
 梅茂みいきなり庭師顔を出す
 覇気・自信揺らぐ学び舎草茂る
 国思ふ光團像や青葉風
 梅・松の青葉の上に好文亭

S 32 電 大和田武義
 S 24 機 三幣 正人
 S 36 金 小室 哲夫
 S 33 短電 山形俊一郎
 S 34 原 芝山 佑芳

鳥居出てパラソルの羽根全開す
 学び舎に面影探す梅雨曇
 城なくも万石の庭よみがへり
 湖渡り来し青葉風好文亭
 学び舎は高層新築梅雨晴間
 汗の目に昔の校舎浮かべけり
 新緑のグラランドに銀杏覚えあり
 グランドの緑陰広くなりけり
 工学で街興しせよ立葵たちあおい
 梅雨晴間HITACHIの文字が鉄を吊る

S 32 金 穂坂 邦光
 会友 平野 昌子
 S 33 短電 山形俊一郎
 S 30 機 檜山 邦良

(参考)

追憶や母校に大樹茂りをり
 梅雨空の雷鳴を背に母校去る

S 22 機 関 誠治

(塚越としを)

「恐山信仰」

塚越としを

口寄せの額ぬかに思惟ある日の盛り

花莫ごさ蘆はんみに半身や若きイタコなる

硫黄噴く岩に汗して奥の院

子の供養石積みに添へ兜虫

地藏尊へすがる善女や夏の草

風車良く廻るもの廻らぬもの

縁あらば天よ応へよ青葉光かげ

逢ひたくて来たよ真実石灼けて

白南風しらはえの紫袈裟けさに浄土見し

五智如来まっ祀る夏菊枯るるなし

平成17年後期 俳句コンクール

作品募集

兼題 夜寒、手袋、大根
締切 12月25日

宛先 〒274-0822

船橋市飯山満町 2-437-21

塚越 としを

TEL/FAX 047-466-2396

Eメール tukakosi@msd.biglobe.ne.jp

兼題にかかわらず、当季雑詠でも結構です。
ご家族の方共々に、気楽に投句して下さい。(5句以内)
随時、添削をお引き受け致します。無料です。
(但し、添削句のコンクール投句はご遠慮下さい)

平成 18 年の新年会の御案内

(担当 副支部長 高橋 清、企画 山形 俊一郎)

平成 18 年の新年会は、少し遠くなりますが外房の景色を満喫できる安房小湊での開催を計画しました。千葉からの送迎付き新年会ですので、第 49 回の史跡・万歩会は鹿野山神野寺での初詣と小湊誕生寺の参拝とさせていただきます。

多数の方々をご参加下さるよう、御案内申し上げます。

- ① 開催日時 平成 18 年 1 月 9 日(月) 午後 12 時 30 分～15 時
- ② 場 所 ホテル『吉夢』(千葉県鴨川市小湊 182-2 電話 04 - 7095 - 2111)
『吉夢』は誕生寺のすぐ前にあります。特に屋上の天空庭園風呂は眺めが素晴らしくお勧めです。(入浴料 600 円は各自負担)
- ③ 集合場所 千葉 NTT 前 午前 8 時 50 分(下図参照)
- ④ 行 程 NTT 前(9:00)→館山道木更津南→鹿野山神野寺(初詣 10:30 出発)
→『吉夢』着(11:15)→誕生寺参拝(入浴希望者は入浴)
→新年会(12:30～14:45)→『吉夢』出発(15:00)→NTT(17:00 着)
- ⑤ 会 費 8000 円(女性 7000 円)
- ⑥ その他
 - 1) 神野寺は推古 6 年(598)聖徳太子により開山され、特に表門は国の重要文化財です。宝物殿には左甚五郎の白蛇、朝鮮金板經、中国武士俑や恐竜の卵等がありますが、今回は初詣のみです。
 - 2) 『吉夢』到着後、誕生寺参詣の方と入浴の方に別れて行動し、12 時 15 分ごろまでに宴会場に集まって下さい。
 - 3) 入浴をされる方はバスタオルをご持参ください。
- ⑦ 申込み締切日 参加希望者は 12 月 15 日(木)までに(山形俊一郎)まで葉書か電話でご連絡下さい。

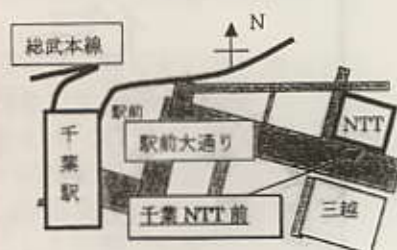
第 6 回バス旅行(母校訪問)の報告

母校(茨城大学工学部)訪問の日(7/7)の天気予報は曇り時々雨でしたが定刻には会友の方を含め 32 名全員が集合。バスが道路事情で約 10 分遅れて到着のため予定より遅れての出発。途中バスガイドさんの楽しい話を聞きながら午前 11 時過ぎに無事茨城大学工学部に到着。

早速多賀工業会の本部を訪問し、本部会議室で前理事長の村野井先生からは多賀工業会の現状にてのご説明がありました。さらに工学部の出羽先生から大学改革現状についての興味深いお話(学際をなくす?)を伺ったのち、学校をご案内頂き、皆さん久しぶりの母校を懐かしく見学されておられました。

その後日立港の魚センターで昼食を取り、水戸偕楽園では園内を約 1 時間散策したあと、無事西船橋に帰着しました。

最後に色々お世話になった村野井先生、出羽先生及び本部の方々に厚くお礼申し上げます。



平成 17 年度多賀工業会総会に参加して

大和田 武義 (昭 32 学電)

多賀工業会の総会に、千葉県支部として税所前支部長に同行して参加しましたので、その状況と要点を以下に報告いたします。

今年の総会は、社会環境の大きな変化により、多賀工業会も重大な転機の年になります。会員の皆様には、母校の変化や同窓会の諸状況を認識頂き、今後の発展が図れるように公私ともに更なる活躍や支援協力をお願いいたします。

1. 開催日、場所 平成 17 年 6 月 25 日(土) 大阪弥生会館(大阪市北区芝田)
2. 参加者 本部及び各支部役員会員や関西支部会員など多数参加で人数は 80 名
3. 理事会・総会について

3.1 村野井理事長挨拶の要点

- 1) H16 年より実施された独立法人化の影響で、人件費・研究費など厳しく削減され、今後の学部活動が心配。教授と理事長の兼務が困難になった。
- 2) H17 年 4 月から個人情報保護法が施行され、新卒者の名簿が学部側より出なくなった。また、従来会員からも種々の要求が出て、同窓会としての会員把握が難しい。
- 3) 銀行のペイオフ実施の結果、同窓会財産の有効活用や保全のために、学部基金として寄付活用するとか、責任分担・出費の見直し等を進めている。

3.2 議事関係

- 1) 会則改定：次の主要点が改正承認された。
 - ①名誉会員→功労会員(同窓会活動に貢献した会員)と変更
(千葉県支部では、原田正夫、林詮、山田泰雄、三幣正人、税所裕の各氏)
非会員で多賀工業会活動に功労のあった人を「名誉会員」とする。
 - ②会長制を導入
同窓会活動の責任などを会長がもち、実務を理事長が推進取り纏める。
会長・理事長の任期は 2 年とする。(従来、理事長は 3 年)
 - ③理事会：理事は原則各支部より 1 名とし常任理事会は廃止する。
(従来は各支部より複数出して理事と常任理事がいた)
 - ④正式に「事務局」を開設する。
 - ⑤総会開催：3 年毎→2 年毎(次回 H19 年日立総合支部担当で開催予定)
- 2) 役員 H17 年度は下記のように決った。
会長(新任)：寺門龍一(昭 25 専電、元工学部長・福島工専校長)
理事長(改選)：村野井徹夫(昭 40 学電)→鶴田浩一(昭 42 学電)
理事(千葉県支部)：税所裕(昭 28 学金)→檜山邦良(昭 30 学機)

4. 講演会(イベントとして)

- ・講師 寺門龍一氏(昭 25 専電)
元茨大工学部長、茨大名誉教授、H17 年度より多賀工業会の会長。
- ・演題 多賀の心 茨城大学工学部にまつわる事
- ・講演要旨

- ①S14 年全国に 7 工専が設立された時、多賀工専も 5 月 22 日に創立、校舎は S16 年出来た。日立製作所が創業 30 周年記念事業として、設立資金 300 万円を全額寄付、東大工学部が世話役校。
- ②文部科学省内に、8 大学工学部長会議有、これが最上格(旧工専立ち上げ世話役校)茨大は次格。創立時日立が多賀の問題になったが、多賀に決る。工専が感謝の意で

~~~~ 以下 10 頁下部につづく ~~~~

このページには「支部役員・役割・連絡一覧表」が掲載されていましたが、個人情報保護のため archive からは削除しました。

元の記事を確認したい方は [shibukanji@mbn.nifty.com](mailto:shibukanji@mbn.nifty.com) へ連絡してください。